

資料活用能力を高め自ら考えを深める社会科学習

～ワークナビの活用とワークシートを基にした話し合い活動を通して～



那覇市立城北小学校教諭

仲地 健

目次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究目標	
III	研究仮説	62
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	62
V	研究内容	63
1	社会科における資料活用能力について	
(1)	社会科学習における資料とは	
(2)	資料を読み取る力とは	
(3)	資料活用能力を高めるとは	
2	話し合い活動の充実について	
3	ワークナビの工夫について	
(1)	資料から情報を読みとらせる機能	
(2)	情報を基に社会的事象について考えさせる機能	
4	ワークシートの工夫について	
VI	授業実践（第5学年）	67
1	単元名	
2	単元目標	
3	指導計画	
4	単元の評価基準	
5	本時の指導	
(1)	目標	
(2)	授業仮説	
(3)	展開	
VII	結果と考察	69
1	作業仮説1の検証	
【結果】	【考察】	
2	作業仮説2の検証	
【結果】	【考察】	
VIII	研究の成果と今後の課題	72
1	成果	
2	課題	
	《主な参考文献》	

資料活用能力を高め自ら考えを深める社会科学習

～ワークナビの活用とワークシートを基にした話し合い活動を通して～

那覇市立城北小学校教諭 仲地 健

I テーマ設定の理由

知識基盤社会やグローバル化が進む社会を生きる児童には、幅広い知識と柔軟な思考力で自ら判断し、他者とのコミュニケーションを図りながら、課題を解決する力が求められている。

しかし、PISA 調査の結果から、日本の児童は、資料を活用する力が弱く、また、学習意欲や他者と関わる力が低下しているなど課題が明らかになった。

小学校学習指導要領解説社会編には、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探求する力を育成する観点から、(中略)地図や統計などの各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味・意義を、資料をもとに解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述する」とある。具体的には、各種の資料から読み取ったことを比較したり関連付けたりする学習や、社会的事象の意味や意義を理解し、自分の言葉で表現する学習が資料活用能力を高める上で重要であるということである。

本校の児童の実態を見ると、調べたことを壁新聞作りにまとめる表現活動は楽しく取り組んでいるが、調べたことをもとに発表する場面では、複数の資料を関連付けして解釈・検討する力が十分に身につけていないために、考えたことをまとめ、伝え合うことを苦手に見られる様子が見られ、意見の交流に深まりが乏しい。そこで、資料の読み取りと読み取った内容を自分の言葉で表現する学習の必要性があると考えた。

これまでの社会科の授業を振り返ってみると、資料の内容を正しく読み取る学習の定着が十分ではない。また、自分の考えの根拠となる資料を選択したり、それをもとに考えをまとめたりする力が、不足していると言える。

このような状況を改善するために、社会科学習の学び方の視点を示し、資料を正確に読み取ったり、資料を基に自分の考えをまとめたりする資料活用能力を高める指導方法の工夫・改善をする必要があると考えた。

そこで本研究では、学び方の視点として読み取りのポイントが書かれたワークナビを作成することによって、情報を正確に読み取る資料活用能力を高め、さらにそれをもとに自分の思考の流れが見えるワークシートを基にした、話し合い活動を通して自分の考えを深め、それを表現できる児童を育てたいと考え本テーマを設定した。

II 研究目標

資料活用能力を高め、自ら考えを深める社会科学習を工夫し実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

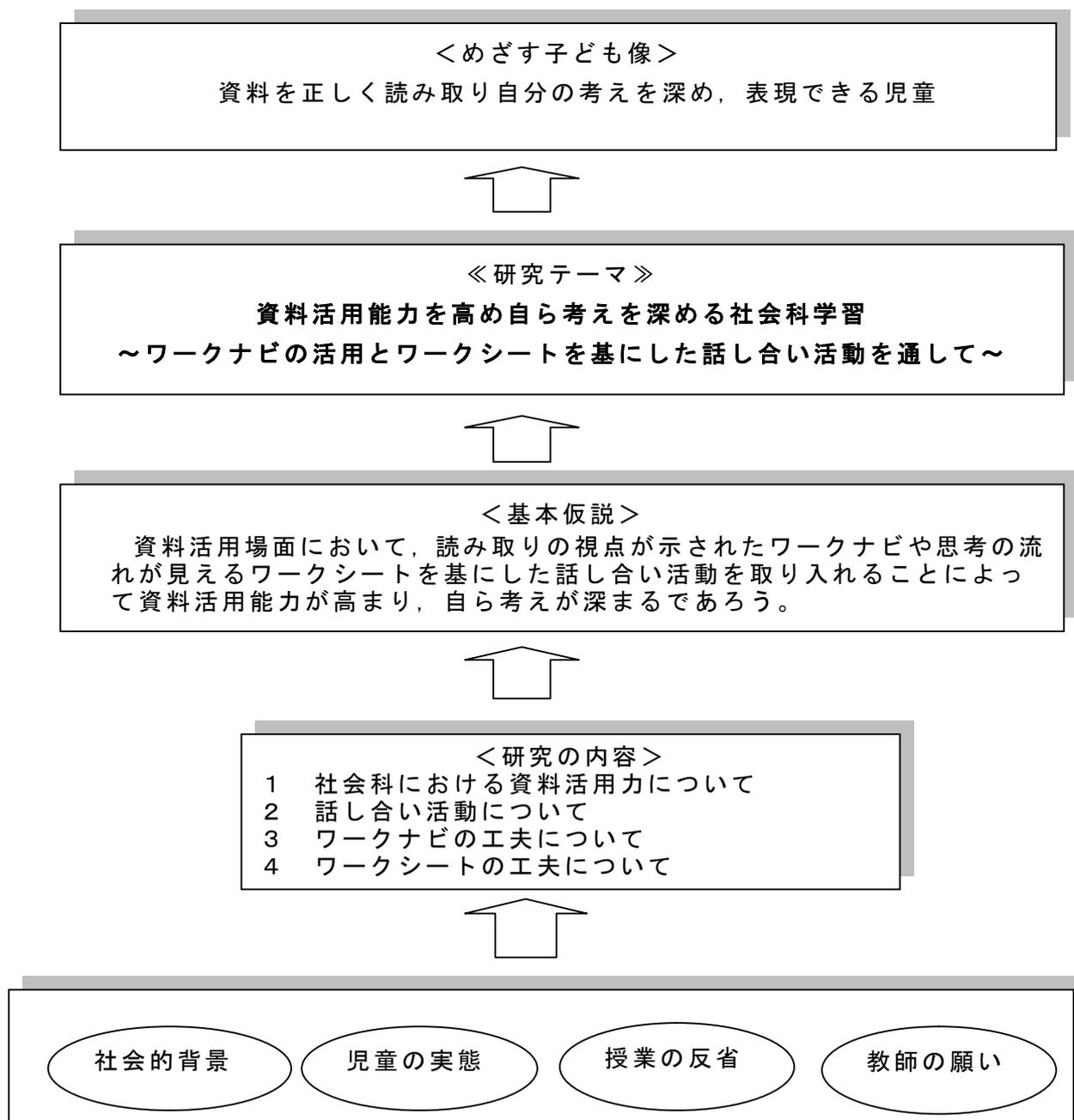
1 基本仮説

資料活用場面において、読み取りの視点が示されたワークナビや思考の流れが見えるワークシートを基にした話し合い活動を取り入れることによって、資料活用能力が高まり、自ら考えが深まるであろう。

2 作業仮説

- (1) 資料の読み取りの視点やポイントが書かれたワークナビを取り入れることで、資料を多面的にみることができ、必要な情報を取り出す力が育まれるであろう。
- (2) ワークナビで読み取った資料から、ワークシートに自分の考えをまとめ、それを基に話し合うことで、自らの考えを深めることができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 社会科における資料活用能力について

(1) 社会科学習における資料とは

「新訂社会科指導用語辞典」による社会科学習における資料とは次のように分類されている。

- ・文章資料（物語，文書など）
- ・図表資料（地図，グラフ，年表，統計，分布図など）
- ・現物資料（実物，標本，模型など）
- ・映像資料（絵，写真，スライドなど）
- ・音声資料（CD，録音テープなど）
- ・映像＋音声資料（映画，ビデオ，DVDなど）

社会科学習の資料は，実に多種多様であり，学習目標に到達させるために教師が提示するものをはじめ，児童が作り出すものもある。資料は目標や内容，学習過程などによって活用の目的が異なってくる。したがって，教師の教材観の確立が前提条件であり，そこから資料の吟味や選択が可能となり，効果的な活用へと結びつくのである。

(2) 資料を読み取る力とは

吉田高志(2010)は，「社会的事象に対して，複数の観点から見たり，考えたりすることによって，社会的事象を広い視野からとらえることができる力を育てることが求められている。」と言っている。

また，写真資料の読み取りについては，『写真資料から「何を」「どこまで」読み取らせるのかを明確にして指導することが重要である。写真資料を提示した場合，その写真から，自分で情報を取り出すことができる。また，その情報を基に自分がもっているイメージや知識，既習内容と比べたり，他者との共通点，相違点を比べたりすることで，「なぜ」「どうして」「～がわかった。」などの思いがもてる。』と述べている。

本研究で，資料を読み取る力とは，資料から得られる情報を取り出すことであり，取り出した情報を基にして，社会的事実や事象の意味を理解するのが社会科の学習であると捉える。よって，社会科学習をより充実させるためには，多様な資料から児童が自ら情報を取り出すことができる力を育成していくことが重要である。

そのためには，本研究で資料の読み取りの視点が書かれた，教師自作のワークナビを活用させることによって，児童は学習に必要な情報を取り出し，自分の知っていることや経験したこと，既習事項などと比べたりしながら，より高度な読み取り方に発展させることができると考える。

(3) 資料活用能力を高めるとは

学習指導要領解説社会編の第5学年の目標の中に「社会的事象を具体的に調査し，地図統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，調べたことを表現するとともに，社会的事象の意味について考える力を育てるようにすること」が挙げられている。基礎的資料を効果的に活用するとは，「地図，統計，映像，関わる人の言葉など各種の基礎的な資料から必要な事を選んで，比較したり関連付けたりしながら調べること」である。

また，北俊夫(2008)によると，社会科の基礎・基本は，理解・能力・態度の

観点から培っていくが、その中の能力を構成する一つの要素が資料活用能力であり、①収集・選択、②分析・整理、③観察・表現の三つに分類している。

①収集・選択

何を知りたいのか、そのためにはどんな資料が必要なのかをはっきりさせて集める。また、集めた資料をさらに学習問題に照らし合わせて選ぶ。具体的には、人に話を聞いたり地図や統計資料、年表から見つけたりインターネットから必要な情報を選んだりすることなどが考えられる。

②分析・整理

収集した資料をノートなどにまとめ、それを基に何が読み取れるか考える。具体的には、二つの資料を比較して考えたり、一つの事象から別の事象を関連付けて考えたり、多面的・多角的に考えを深めたりすることなどが考えられる。

③観察・表現

分析・整理または考察・整理した内容を文章や絵、新聞などで他に表す。具体的には、文章に的確な絵地図や表、グラフ、年表、統計資料などを取り込んで効果的に表したり、ホームページによって、外部へ発信したりすることなどが考えられる。

本学級の児童の資料活用能力の実態を考えた場合、複数の資料を関連づけして解釈・検討する力が十分に身につけていない。また、書くことに抵抗があり、ノートにまとめ、整理することが苦手意識のある児童が多い。さらに、観察、表現力の面では、決まった特定の児童の発言で授業が終わる場合が多い。

本研究では、これらの児童の実態に合わせて必要な資料の収集・選択や資料の多面的、多角的な分析・整理や観察・表現に焦点をあてる。そのために教師作成のワークナビを活用し、資料の読み取り、話し合い活動など互いの考えを聞くことで共通点や相違点に気づかせ、より自分の考えを深めることができ、資料活用能力も高まることにつながるものとする。

2 話し合い活動の充実について

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）では、社会科における言語活動について、「観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習」などと具体的な学習活動を示している。また、吉澤達也（2008）も「自分の考えを書いたり話したりする活動が重視されている。児童一人一人のものの見方は違うので、同じ体験をしたり同じ資料を読み取ったりしたとしても、子どもたちが持つ気づきや思いや考えを話し合う活動が必要である。」と述べている。

このことから本研究では、話し合い活動を充実させるために、授業の導入場面において、児童の興味や関心を引きつける具体物や写真・グラフを読み取りの視点が書かれたワークナビを活用することによって気づいたことや思ったこと、調べたことや考えたことを、ワークシートに記入しその内容を、友だちに伝えたり聞いたりすることで、「自分の考えと同じだ」「なるほど」「こんな考えもあるんだ」という共感や新たな気づきを得ることで自分の意見に広がりや深まりができるものとする。

ここで、話し合い活動においては、自分の言葉でまとめる活動を充実させ、表現できる児童を育てたい。

3 ワークナビの工夫について

ワークナビとは、資料の読み取りの視点・ポイントを整理しながら、単元を通じて資料活用能力を高めるヒントカードのことである。村野聡の資料読み取りトレーニングシート(2010)をもとに一部修正を加え6枚セットで作成したものを活用する。

(1) 資料から情報を読みとらせる機能

ワークナビの種類ごとに、各項目を照らし合わせて順序よく読み取っていく。そのときグラフ資料のどの部分に注目し、何に気をつけて資料を見ていくかを示すことで、資料の読み取る力が高まっていくと考える。下記は、今回作成したワークナビである。

1 「イラスト(写真)」読み取りワークナビ

I 必要要件の確認 (例)

①どこでしょう。

②季節はいつごろでしょう。

③何が多い(少ない)かみつめます。

④どんな人がいますか。(どんな服装をしていますか。)

⑤何をしていますか。



II イラスト(写真)を見て、想像したことをノートにまとめよう。

III 学習課題を立てよう

①資料からぎもんに思ったことを書いてみよう。

②書き出したことを似ているもの、違うものに整理してみよう。

③整理したものをもとに、課題をつくってみよう。

(例)・○○になっているのは、なぜだろう。

・なぜ、～は○○なのに、□□は△△なのだろう。

・～は○○になっているが、□□についてどうなっているのだろう。

1 「イラスト(写真)」を読み取る視点。

- ・児童に必要要件を確認させる。
- ・イラスト、写真の細かいところまでみせる。(場合によっては、イラストに色を塗ることによって、より鮮明に状況が見えることがある。)
- ・児童の思考を深めるために「このあとどうなると思いますか」と問いかけをし、時間の前後について予想させ、写真の中に見えているモノから証拠を探し、イラスト、写真の前後の様子についての予想をさせる。児童がイラスト・写真の情報を詳しく読みとり、前後の情報についても考えることができるようにする。

3 「折れ線グラフ」読み取りワークナビ

I 必要要件の確認

① タイトル(表題)を見よう。

② 年度を見よう。

③ 出典を見よう。

II 軸の読み取り

④ 縦軸の単位を見よう。

⑤ 横軸の単位を見よう。

III 変化の指摘

⑥ 全体的に見て、次の5つのうちどのような変化かみます。

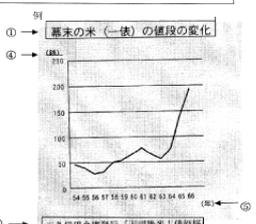
A 段々上がる B 段々下がる

C 突然上がる D 突然下がる

E 変化なし

⑦ このグラフにはおききな変化がみられます。どこでしょう。(答え 64年から66年)

⑧ グラフが一番高い・低いみつめます。どこでしょう。(答え 66年<高い66年>)



右図を例に

全体として増加しているが、ところどころ減っているところがある。その時、グラフ上に多くの接点を持ち直線で結ぶ(この例で言えば段々上がる。)

IV 学習課題を立てよう

①資料からぎもんに思ったことを書いてみよう。

②書き出したことを似ているもの、違うものに整理してみよう。

③整理したものをもとに、課題をつくってみよう。

(例)・○○になっているのは、なぜだろう。

・なぜ、～は○○なのに、□□は△△なのだろう。

・～は○○になっているが、□□についてどうなっているのだろう。

3 「折れ線グラフ」を読み取る視点。

- ・資料の読み取りの基本(表題・年度・出典)軸の読み取り(縦軸・横軸)が何を表しているかおさえる。
- ・折れ線グラフを見て、変化の指摘をおさえる。
- ・グラフの大きな変化に着目させなぜだろうとの問いかけでその原因を予想し話し合う。話し合うことによって、友だちの考えと自分の考えを対比させて、多様な見方、考え方を共有し、自分の考えを深めるようにする。

5 複数資料読み取りワークナビ

I 必要要件の確認

- 1 タイトル（表題）を見よう。
- 2 年度を見よう。
- 3 出典を見よう。

II 軸の読み取り

- 4 縦軸を見よう。（万t）
- 5 横軸を見よう。（年）

二つの資料を見て「漁業の現状」について考えてみよう。

①のグラフの特徴
（最大値、最小値、全体の形）

②のグラフの特徴
（最大値、最小値、全体の形）

つまり、①と②を比較して予想されること。

- ・共通点
- ・大きくちがう点
- ・タイトルから想像できること

例) ①のグラフから分かることは魚かいかい類の生産量が1990年から減りつつづけている。
②のグラフから分かることはかいかい類の輸入量が1990年から急増している。
つまり、日本の漁業は生産量が減ってきているので輸入に頼っている。

※このように二つの資料をつなぎ合わせた解釈をする。

① 魚かいかい類の生産量の変化

② 魚かいかい類の輸入量の変化

5 「複数資料」を読み取る視点。

- ・それぞれの資料の読み取りの基本（表題・年度・出典）軸の読み取り（縦軸・横軸）が何を表しているかおさえる。
- ・それぞれの資料から、わかることを読み取らせる。
- ・複数の資料を、関連づけて読み取らせる。
- ・それぞれの資料の共通点や相違点に着目させ関連付けたことを、基に話し合う。

次のアウトラインを示して書かせる。

①のグラフから分かることは()ことだ。
②のグラフから分かることは()ことだ。
つまり、()ということだ。

①、②の二つの資料をつなぎ合わせた解釈をさせる。資料の共通点や相違点に着目し、関連づけて、事象をとらえることができるようにする。

図1 ワークナビの活用

それぞれ6つのワークナビには読み取りの方法があり、最終的には資料を配布しただけで児童が自ら6つあるワークナビから必要に応じたワークナビを選択し、資料を読み取れるように育てたい(図1)。

その他のワークナビ資料として、**2**「大小を表す棒グラフ」、**4**「割合のグラフ」、**6**「複数資料（時間差提示）」についても作成したが紙面の都合上省略する。

(2) 情報を基に社会的事象について考えさせる機能

資料から読み取った情報を基に、今後どのような展開になるか予想させる発問を提示する。また、資料を関連付けて結論を導く過程において多面的な見方ができるようにしたい。

4 ワークシートの工夫

ワークシートを活用することに慣れていない本学級の児童だがワークナビを効果的に活用して、資料から、わかったこと、気づいたことをもとに学習課題を立てることができるようにする。そのためには、ワークシートに課題のグラフを載せることによって、使いやすく、説明がしやすくする(図2)。

さらに課題に対する予想をワークシートに書くことによって、調べ学習の視点を明確に把握することができるようにする。調べ学習では、必要な資料の

【社会科ワークシート】 ()月()日 名前()

わかったこと・疑問に思ったこと。

課題(ゆあて)

課題に対する予想

調べたわかったこと

図2 ワークシートの工夫

-66-

収集・選択をしてまとめる。

また、各自で調べたことをもとにグループで話し合いの場を設定し、多様な見方、考え方を共有し自分の考えを深めることができるようにする。

VI 授業実践（第5学年）

1 単元名 「工場生産を支える人々」 教材「世界とつながる自動車」

2 単元目標

○工業生産や工業が盛んな地域の様子を具体的に調べ、工業生産に携わる人々が生産を高める工夫や努力をしていることや、日本の工業の現状と課題を捉えることができる。

○工業生産に関する文章や写真からの情報、地図や地球儀、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える工業生産の意味について、貿易・運輸のはたらきなどと関連させながら考えることができる。

3 指導計画

世界とつながる自動車（6時間）

時	中・小単元名 (活用したワークナビ)	ねらい
1	☆ワークナビ活用練習 ②大小を表す棒グラフ ワークナビ ④割合のグラフワークナビ	②・④のワークナビを活用 ・グラフの基本の読み取りをおさえる練習 (表題・年度・出典) ・軸の読み取りをおさえる練習 (縦軸・横軸・単位) ・数値の読み取りをおさえる練習をおこないワークナビが活用できるようにする。
2	1自動車工場をたずねて (3)これからの自動車づくり ①イラスト(写真) ワークナビ ③折れ線グラフワークナビ	①イラスト(写真)ワークナビを活用 ・写真を見て当時の様子を予想する。 ③折れ線グラフワークナビを活用 ・生産台数や価格の変化をよみとらせる。 ・グラフの大きな変化に着目させ(なぜだろう)との問いかけでその原因を予想し合うことができるようにする。
3	☆複数資料の読み取りワークナビ活用練習 ⑤複数資料ワークナビ活用 ⑥複数資料ワークナビ活用 (時間差提示)	⑤・⑥複数資料の読み取りワークナビを活用 ・複数の資料を同時に提示し、関連づけて読み取らせ、解釈をさせる。 ・資料の共通点や相違点に着目し、事象をとらえることができるようにする。
4 (本時)	2 世界とつながる自動車 (1)自動車は世界へ (本時4/6) ③折れ線グラフワークナビ	③折れ線グラフワークナビを活用 ・グラフの変化について、全体的な傾向や大きく変化している部分に着目させる。 ・グラフの読み取りを基に、学習課題を立てさせる。
5	(2)輸入と輸出を比べてみると・・・ ②大小を表す棒グラフ ワークナビ ④割合のグラフワークナビ	②大小を表す棒グラフワークナビを活用 ④割合のグラフワークナビを活用 ・グラフや地図をもとに、日本ではどのようなものが輸入されたり、輸出されたりしているかを調べて、理解することができるようにする。
6	(3)地球儀と地図を使いこなす	地球儀や地図の特徴に気づき、地球儀を使って世界各国の位置や日本からの距離・方位を調べることができるようにする。

4 単元の評価規準

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
1 自動車の生産をもとにして、工業生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 2 国民生活を支える工業生産の発展について考えようとしている。	1 工業生産の様子について、自動車を例にして、学習問題や予想、学習計画を考え、思考・判断したことを適切に表現している。 2 工業生産の様子と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活を支えるために果たしている役割について考え、的確に表現している。	1 工業生産の様子や課題、様々な工業生産について、地図や地球儀、統計、その他の資料を活用して、適切に読み取っている。 2 調べたことをノートや白地図、作品などにまとめている。	1 自動車をはじめ、様々な工業生産が国民生活を支えていることを理解している。 2 いろいろな工業生産や工業地域の分布などを理解している。 3 工業生産に携わっている人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などはたらきを理解している。 4 工業生産は国民生活を支える大切な役割を果たしていることを理解している。

5 本時の指導

(1) 目標

日本の自動車の外国での生産の様子を調べ、貿易による世界各国との結びつきや協力について考えることができる。

(2) 授業仮説

- ① 課題を立てる場面で、読み取りの視点が書かれたワークナビを取り入れることで、資料の情報を読みとることができるであろう。
- ② 読み取った資料から、ワークシートに自分の考えをまとめ、それを基に話し合うことで、自らの考えを深めることができるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
導入 8分	1 日本の自動車の主な輸出先について知る。 2 「海外生産」の意味について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自動車の輸出の様子を理解させ海外生産との関わり考える。[資料1] ・自動車が海外でも生産されていることを気づかせ課題把握につなげる。[資料2] 	
展開 30分	3 課題を把握する。 ① 「日本の自動車の輸出台数と海外生産台数の変化」のグラフ（資料3）から気づいたことを発表する。 ・輸出台数がだんだん減ってきている。 ・海外生産台数が増えてきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ワークナビを使って資料を読みとる（授業仮説1の検証） </div> ② 課題を立てる。 課題 海外生産が増えてきているのはなぜだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの著しい変化に着目させ、課題への方向づけを図る。 [資料3]「日本の自動車の輸出台数と海外生産台数の変化」グラフ Cへの手立て ・児童の疑問を生かして課題が設定されるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6つあるワークナビから課題にあったワークナビを選択することができる。 ・ワークナビを取り入れることで資料の情報を読みとることができる。 【観察・資料活用の技能】 【おおむね満足】 グラフの変化の割合から特色をつかむことができる。 【十分満足】 それぞれのグラフの具体例をあげて
	4 グラフ（資料3）を見て予想を立てる。 ・輸出に比べて時間がかからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・海外生産が増えるのは、よい点があるからだということをおさえる。 Cへの手立て 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・車を買いたい人にすぐ届けられる。 ・より早く自動車をつくることができる。 <p>5 資料から調べ話し合う。 [調べる視点]→海外生産のよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の人たちが仕事につける。 ・その国の材料や部品をつかえる。 ・生産した車を他の国へ輸出すること。 ・つり合いのとれた貿易 <p>6 調べたことを発表し合い、考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ワークシートを取り入れた話し合い活動（授業仮説②の検証）</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りが難しい児童には、海外工場があるとどんなよい点があるか考えさせ、海外生産が増えてきた理由をとらえさせる。 <p>ワークシートの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題に対する自分の予想 2 グループで話し合う 3 発表 4 発表からわかったことを書き込む 	<p>説明することができるといえる。</p>  <p>【思考・判断・表現】 【おおむね満足】 海外生産が増えた理由について自分の言葉でまとめることができる。 (ワークシート)</p>
<p>まとめ 7分</p>	<p>7 外国との関わりを含めた自動車生産について自分の考えをまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その国の材料や原料が使える。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外生産が増えた理由についてまとめる。 <p>最初の考え方と違う児童へも発表を促す。</p> 	<p>【十分満足】 海外生産が増えた理由について日本と各国の関係を考慮した立場からまとめることができる。(ワークシート)</p>

VII 結果と考察

1 作業仮説1の検証

資料読み取りの視点やポイントが書かれたワークナビを取り入れることで、資料を多面的にみることができ、必要な情報を取り出す力が育まれるであろう。

ワークナビの有効性について

【結果】

(1) 授業実践（3／6時から）

本単元では、資料読み取りの視点が書かれた6つのワークナビを取り入れて実践した。本実践において、資料の種類ごとにワークナビを使って読み取る視点を確認し学習を進めた。また、資料のどの部分に目を向けて読み取っていけばいいのか学習し、ワークナビの使い方の習熟を図るように指導した。図3は複数資料の読み取り場面で活用した。表1はワークナビ活用前の資料の読み取りで表2はワークナビ活用後の資料の読み取った記述である。表1では、資料を漠然と見ていた児童が多かったが、表2では、具体的変化の割合を数値で示している。例えばワークナビ活用後では、表2の①のように、5・6複数資料の読み取りワークナビの2つの資料をつなぎ合わせた解釈の部分を活用し、「どうしてか」の疑問から入り課題へと結びつけている。また、表1の(2)にあるように、「急にふえている」表現から、「平成9年のインターネット利用者数の1155万人に比べ、平成12年の4708万人は3年で4倍近く増えている」など、得られる情報から具体的に表現していることがわかる。これは、見る視点をはっきりさせたことにより、新たな事

実に気づくなど、多面的な資料の見方をする児童が多くなったことが伺える。

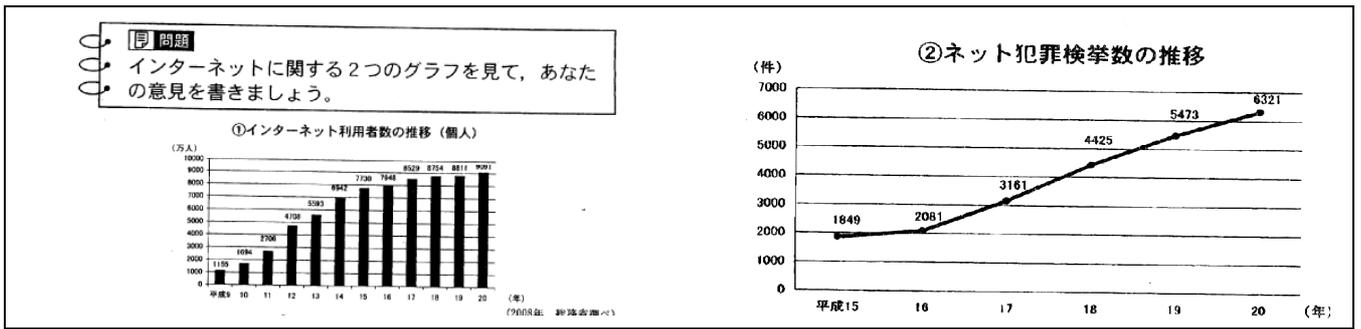


図3 複数資料の読み取り

例) 児童A 表1 ワークナビ活用前

- ①インターネット利用者数が増えるにつれてネット犯罪検挙数が増えている。
- ②平成11年から平成12年は急に増えている。

表2 ワークナビ活用後

- ①平成17年以降になるとインターネット利用者から増えたのは、どうしてか。まず、資料1から、平成17年以降インターネット利用者数が増えたことがわかる。つまり、インターネット犯罪検挙数が増えたのである。
- ②平成9年のインターネット利用者数の1155万人に比べて、平成12年の4708万人は3年で4倍近く増えているのがわかる。

【結果】

(2) 授業実践 (4 / 6時から)

本時の検証授業では、6つあるワークナビから課題にあった³折れ線グラフ読み取りワークナビを児童、自ら選択し活用することができた。アンケートでは、「読み取った資料をもとにいろいろな考え方を広げることができましたか。」の結果で77% (26人)が「できる」「どちらかといえばできる」と答えている。本時の授業においてもワークナビを活用したことで、資料の読み取りに変化があった児童は34人中29人おり、グラフの種類と特徴をおさえて、グラフの全体的な傾向や大きく変化している部分に着目し日本の自動車の生産の様子をおさえることができた。

資料活用場面で、ワークナビを活用した感想として「めあてを立てるコツが分かる」「課題をつくれるようになった」、「いろいろなグラフの見方が分かった」「読み取りの方法がわかった」、「わかりやすかった」、「グラフをみるのが簡単になった」という感想があった(表3)。

表3 「ワークナビ」を活用したあとの感想

- めあてを立てるコツが分かる。
- 課題をつくれるようになった。
- いろいろなグラフの見方が分かった。
- 読み取りの方法がわかった。
- わからない時、ワークナビを参考にするとわかりやすかった。

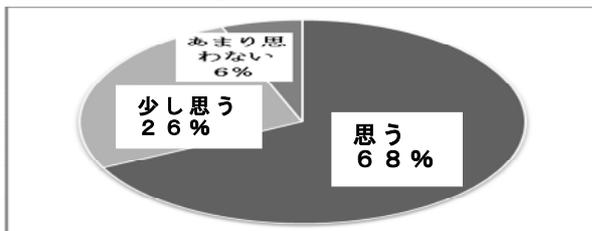


図4 ワークナビは資料の読み取りに必要なだと思いますか。

【考察】

資料ごとに、ワークナビに示されている読み取りの視点と、資料を比べて学習を進めたり、どの部分に目を向けて資料を読み取っていけばいいのか、確認したりしながら学

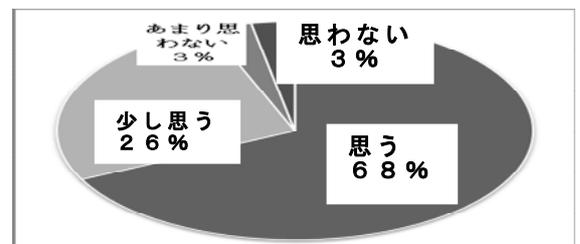


図5 ワークナビを使うことによって資料の読み取りがしやすくなったと思いますか。

習に取り組んでいった。図4から分かるように、「ワークナビは資料の読み取りに必要なだと思いますか。」との問いに94%（32人）が「思う」「少し思う」と答えている。また、「ワークナビを使うことによって資料の読み取りがしやすくなったと思いますか。」の問いでも、94%（32人）が「思う」「少し思う」と答えている（図5）。

これらから、ワークナビで示した資料の読み取りの視点をより明確にすることで、資料の情報を読み取れない児童が少なくなり、全体的に情報を読み取る力がついてきたと考える。よって読み取った情報を基に学習課題を立てることができるようになってきた。以上のことから、作業仮説1が有効であると考えられる。

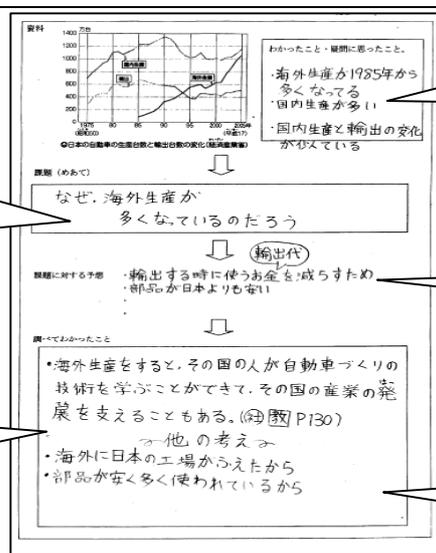
2 作業仮説2の検証

ワークナビで読み取った資料から、ワークシートに自分の考えをまとめ、それを基に話し合うことで、自分の考えを深めることができるであろう。

【結果】

資料の中から、大きく変化した年度に視点をあて学習課題を設定することができた。
(33人/34人中)

資料から調べて分かったことを、まとめることができた。



3つの折れ線グラフを関連づけて、わかったこと、疑問に思ったことに気づくことができた。

既習内容と関連づけて予想を立てることができた。

学習課題とつなげて話し合うことで、自分の考えを深めることができた。次時の課題につなげる。

図6 活用後のワークシート

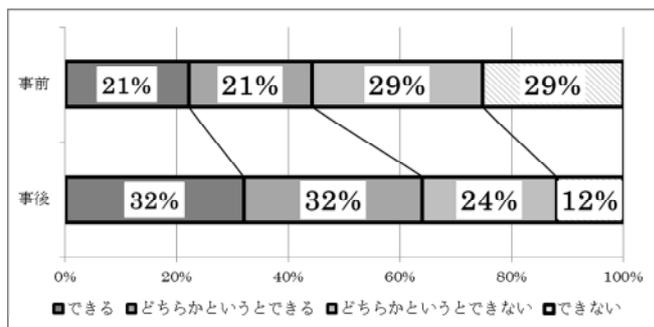


図7-1 ワークシートを用いた話し合いの場面で自分の意見をまとめ・発表することができましたか。

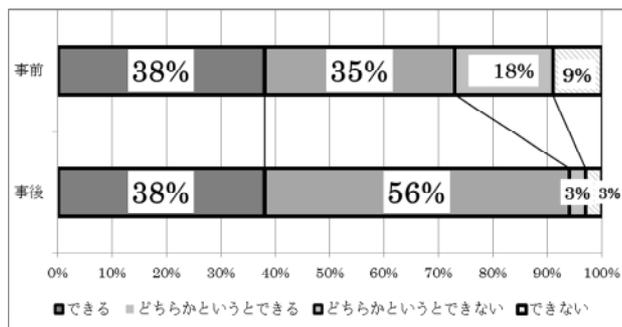


図7-2 ワークシートを用いた話し合い活動の中で友だちの考えと比べて同じ点や違う点を見つけることができましたか。

図7-1のワークシート未使用の時は、話し合いの場面で自分の意見をまとめ・発表することが「できる」「どちらかというところ」児童は42%（14人）だったが、ワークシートを使用した時64%（22人）に増えている。また、図7-2のワークシート未使用の時には、友だちの考え

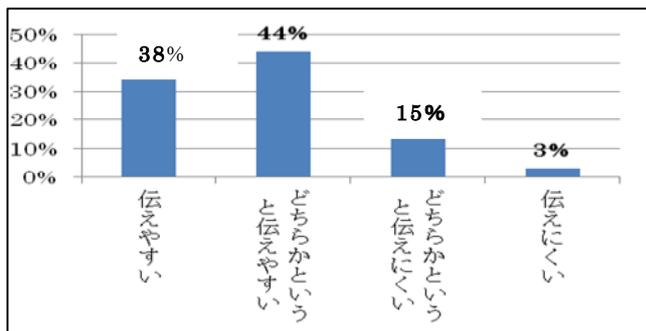


図7-3 ワークシートをもとに話し合いをすると、自分の考えを伝えやすいですか。

と比べて共通点や相違点を見つけることが「できる」「どちらかと言うとできる」

児童は 73% (25 人) だったがワークシートを **表 4 ワークシートから見た気づきの変化**

使用した時には 94% に増加している
また、図 7-3 のアンケート結果では、
ワークシートをもとに話し合いをす
ると、自分の考えを「伝えやすい」「ど
ちらかと言うと伝えやすい」と答えた
児童は 82% (28 人) であった。

	話し合い活動（前）	話し合い活動（後）
B 君	・海外で生産する と、日本から車を 運ぶよりお金が かからない。	・海外生産が増えると現 地の材料や部品が多く使 われているため、その国 の人が工場の仕事をと おして、自動車づくりの技 術を学ぶことができる。
C 君	・働く人がたくさ んいるから海外 生産が増えた。	・たくさんの方が仕事に つき、その国の産業を発 展させる。

【考察】

本学級では、これまで思ったこと
や分かったことなどを表現する児童に限られていたが、本時では、多くの児童が自分の
考えを発表することができた。その理由としてワークシートを活用したことがあげられ
る。ワークシートを活用したことによって、「わかりやすい、書きやすい」「次に何をす
ればいいのか分かる」「順序があるから便利」という児童の感想があった。これらのこと
から社会科学習において、読み取った情報をまとめやすいワークシートを活用すること
によって自分の考えを表現できるようになった。また、表 4 にあるように、ワークシ
ートに書いたことを基にグループでの話し合い活動の場を設定することによって、自分の
見方が広がり、考えを深めることにつながった。

これらのことから、課題にあわせたグラフを記載したワークシートの活用は効果的で
あり、作業仮説 2 は有効と考える。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 社会科学習の資料の読み取りの場面で、ワークナビを活用することで、読み取りの
視点をおさえ、具体的な数値を用いて、自分の考えをまとめることができた。
- (2) ワークシートを活用したことで、社会科学習における「読み取り・選択・結論」
という学習過程の流れができた。また、資料から読み取った情報を自分の言葉でま
とめ、話し合いを通して見方が広がり、考えを深めることができた。

2 課題

- (1) 表現力を高めるために、グループや全体での話し合い活動の持ち方を工夫すること
で、表現力を高めていきたい。
- (2) 個別指導を要する児童に対しては、きめ細かな資料の読み取りや表現活動の手立て
を考える必要がある。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 社会科編』	文部科学省	東洋館出版社	2008
『社会科重要用語 300 の基礎知識』	森分孝治 片上宗二編	明治図書	2000
『社会科資料読み取りトレーニングシート』	村野 聡	明治図書	2011
『新教育課程と社会科の授業構想』	北 俊夫	明治図書	2008
『グラフや統計資料の読み取りの授業』	吉田高志	明治図書	2010
『社会科における読解力の育成』	吉澤達也	埼玉県立総合教育センター	2008